

韓国留学 2016年 後期

文学部 北岡桐子

9月 1日に開講して後期が始まりました。韓国ではチュソクといって日本で言うお盆が9月にあります。そのため学期が始まって2週間ほどでまた5日間の連休に入りました。その期間にはほとんどのお店が休みになると聞いていたので寮で過ごす予定でしたが、観光名所などは営業をしていると知り、私も知り合いと仁寺洞（インサドン）に遊びに行きました。チュソクが終わってからは、後期の新しい授業でも少しずつ課題が増えてきました。学期が変わったので寮のルームメイトも変わるのですが、前期から仲良くしていたオンニと一緒に勉強を教え合ったり、課題に取り組んだり大変なことも頑張る仲間がいたからこそやりきることができました。



韓国のご飯は日本に比べて量が多いのも特徴です。

10月 10月は授業の予習、復習に追われた月でした。私の留学の最大の目的は韓国語の実力を伸ばすことだったので、教材が韓国語の教科書は特に入念に知らない単語をチェックしたり、全体に目を通したりすることに力を入れました。また通訳の授業では、

一つ上の学年を対象としていたこともあり、毎回授業が終わるたびにぐたくたに疲れていました。月末の中間考査では覚えなければならない量が多く、苦勞もしましたが、自分の実力がまだまだであることを実感できたことが良い経験になったと思います。



日本伝統文化論の教材。茶道、

祭り、相撲などについて韓国語で学びました。

11月 11月には授業の発表と課題のために忙しく過ごしました。発表は韓国語で行うので原稿も予め作っておくのですが、質問を受けた際にはその場で答えなければならず、言葉が上手く出てこないなど難しい部分もありましたが、なんとかやりきることができました。しかし、この時期に韓国語のスランプがきてしまい、通訳の授業では思うようにいかないもどかしさに苦しんだりもしました。上手くできない、思うようにいかないというのは本人にしか分からないことなので、新しい勉強法を探したりひたすら練習をしたりするなど試行錯誤をしながら過ごしていました。



韓国料理の中でも有名な
비빔밥 (ビビンバ)

12月 韓国の後期は12月に終わります。そのため12月になるといよいよ留学生活

も終わりに近づいたのだなという実感が湧いてきました。学期末なので試験勉強の計画も立てながら、最後なので勉強だけの生活にならないようにしようとできるだけ外に出るようにしていました。以前から観たかったミュージカルを観たり、ドラマの原作となった小説を読んだり、興味を持ったことにできるだけ触れてみることで好きなものの幅が広がったように思います。大好きな韓国語で作品を観たり読んだりすることがとても楽しかったのを覚えています。



韓国の伝統茶。見た目も綺麗です。

12-1 月 1月の初旬に帰国予定だったため、学期を終えてからはソウルで過ごしました。この期間に以前から少しずつ読んでいた韓国の小説や語学に関する本を沢山読みました。韓国の本屋さんには店内で座って本を読みふける人が多く、そのための椅子や机もあって日本とは雰囲気も違うので来たばかりのころは驚きましたが、通ううちに韓国独特の本屋さんがすっかり気に入ってしまいました。

まとめ

1年間という限られた時間のなかで沢山の人の出会い、様々な経験をすることで私は以前よりも成長したと感じる部分が増えていくのを感じることができました。今回、留学の一番の目的は語学力の向上でしたが、自国を出て生活することには言葉だけに限らず多くの学びの機会が広がっているということを知りました。このような機会を与えてくださった方々に感謝するとともに、今後も後輩の皆さんにはぜひ交換留学制度を利用して、積極的に学習、交流をしていってほしいと思います。